

夢と志を育む小鹿野教育

第2次小鹿野町学校教育ビジョン

令和元年5月

小鹿野町教育委員会

目 次

【小鹿野町学校教育ビジョン策定の趣旨】	1
I 小鹿野町学校教育ビジョンの基本的な考え方	1
1 これからの子供に求められる力	1
2 小鹿野町の子供の現状と課題	1
(1) 「全国学力・学習状況調査」「埼玉県学力・学習状況調査」結果から	
(2) 「新体力テスト」の結果から	
(3) 子供たちを取り巻く環境の変化	
II 小鹿野町の学校教育が目指すもの	3
1 基本目標	3
2 目指す子供像	3
3 目指す学校像	3
4 基本方針	3
III 重点的な取組	4
1 確かな学力の育成	4
(1) 連続性・発展性のある教育の推進	
(2) 規律と活力ある学校づくり	
(3) 主体的な学習態度の育成	
2 豊かな心の育成	5
(1) 心の教育の推進	
(2) 社会に貢献する態度の育成	
(3) 食育の推進	
(4) 体力向上と健康の保持増進	
3 夢に向かう活力の育成	6
(1) グローバル人材の育成を支える基盤整備	
(2) 夢と志を育む教育の推進	
(3) 郷土小鹿野に根ざした教育の推進	
4 小鹿野ならではの教育の推進	7
(1) 家庭の教育力の向上	
(2) 地域の教育力の活用	
(3) 学校教育充実に向けた行政支援	
5 次世代へつなぐ教育環境の整備	8
(1) 幼児教育の充実	
(2) 学校の未来像	
(3) 施設・設備の充実	

【小鹿野町学校教育ビジョン策定の趣旨】

今日、教育を取り巻く社会状況は、国際化・情報化の進展、少子・高齢化の進行、価値観の多様化など急激に変化し、予測困難な時代を迎えられている。このような時代を生きる子供たちには、どのような未来をつくっていくのか、どのようにして社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生のつくり手となる力を身に付けるようにすることが重要である。

小鹿野町では、平成27年度から30年度までを見通し、「未来を拓く夢と希望と勇気を育む小鹿野教育」を基本理念とした学校教育ビジョンを策定し、地域に根ざし、地域を拓き、地域から未来を担う人材の育成に向けた取組を積極的に推進してきた。

一人一人の資質・能力を進展させ、確かな自己実現を果たすことができるよう、意図的・計画的に育成していくことは、子供たちの生涯を幸せなものにするとともに、町を興し、豊かな社会をつくることにつながる。まさに、「町づくりは人づくり」に直結するものである。

このような考え方に立ち、これまでの学校教育ビジョンを継承し、的確な現状把握に基づき、将来を見通した育成指針として第2次小鹿野町学校教育ビジョンを策定する。

I 小鹿野町学校教育ビジョンの基本的な考え方

1 これからの子供に求められる力

子供たちが生きるこれからの社会は、様々な地球環境の変化や、人口減少、情報化、グローバル化といった社会的変化が加速度的に進展することが予想される。とりわけ第4次産業革命ともいわれる進化した人工知能(AI)が様々な判断を行う時代が到来し、社会や我々の生活を大きく変えていくと考えられる。このような社会を生きていく子供たちにとって、「困難を乗り越える力」、「新たな課題の解決に向けて行動する力」が求められ、さらに、「仲間と協力して社会の向上に資する力と態度」が必要となる。SDGsに示される多くの取組を世界中が協力して推進し、将来にわたって持続可能な社会を構成していくためにも、不可欠な資質である。

現実的に人口減少、少子・高齢化が急速に進む小鹿野町でも、このような力の育成は喫緊の課題である。郷土小鹿野への愛着と誇りを抱き、確かな人間力を身に付けさせることが重要である。そのために、小鹿野町の未来を担う子どもたちに、「確かな学力」、「人のためという態度」、「夢(将来展望)と自信(自己肯定感)」を着実に育んでいきたい。

2 小鹿野町の子供の現状と課題

(1)「全国学力・学習状況調査」、「埼玉県学力・学習状況調査」の結果から

小学校4年生から中学校3年生までの全ての児童生徒を対象として毎年実施している「平成30年度埼玉県学力・学習状況調査結果」をみると、中学校2年国語が県平均を上回るとともに、小学校4年国語・算数、小学校6年算数は県平均とほぼ同程度である。しかし、小学5年算数、中学3年国語、算数、英語等は県平均を下回っている。

また、小学校6年生と中学校3年生に毎年実施している「平成30年度全国学力・学習状況調査結果」を県平均と比較すると、小学校6年算数Aと理科は同程度であるものの、その他は下回っている状況である。児童生徒の学力向上は、依然として本町の大きな課題である。

さらに、埼玉県学力・学習状況調査の質問紙調査結果から、「学級での生活が楽しい」と回答した児童生徒は90%以上であり、本町の児童生徒は学校生活を楽しんでいると言える。また、「授業の予習や復習をしている」と回答した児童生徒は県平均を上回っており、「授業の予習や復習」を真面目に行っていることがわかる。

一方「自分には良いところがある」と感じる児童生徒の割合が県平均と比べて低く、中学校3年生の半数程度が「家庭で学習に取り組む時間が1時間に満たない」と回答するなど、家庭学習時間にも課題がある。「自己肯定感の高揚」、「家庭学習の充実」等を目指して、学校、家庭、地域が連携して取り組むことが求められている。

(2)「新体力テスト」の結果から

平成30年度「新体力テスト」（握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走〈中学校〉、20mシャトルラン〈小学校〉、50m走、立ち幅とび、ボール投げの8種目）の調査結果から、小学校男子で73%、小学校女子で81%、中学校男子で33%、中学校女子で46%の項目が県平均値を上回っている。男女合計では、小学校77%、中学校40%の項目が県平均値を上回っている状況にある。

種目別にみると、「握力」と「上体起こし」がともに89%、「ボール投げ」が78%の項目で県平均を上回っている。

学年別では、小学校3年で男女ともに88%、小学校2年と小学校4年で男女ともに75%の項目が県平均を上回っている。

課題としては、小学校の「50m走」、「立ち幅とび」、中学校の「反復横跳び」、「持久走」、「50m走」、「ボール投げ」があげられる。

また、平成28年度からの経年変化をみると、小学校では、「握力」、「上体起こし」、「ボール投げ」で順調に県平均を上回っている。中学校では、「握力」で県平均を上回っているが、他の項目については学年が上がるにつれてやや低調の傾向にある。

※項目：1種目について学年別男女別にカウントしており、全体で144項目となる。

(3)子供たちを取り巻く環境の変化

我が国においては、核家族化や少子化が進む中、子供たちが兄弟姉妹や友人同士で切磋琢磨したり、祖父母等と触れ合ったりする機会が減少している。また、地域社会においても地縁的なつながりの弱体化や人間関係の希薄化が進む中、子供たちの成長の糧となる体験や経験が不足していると言われている。

本町においては、地理的な面からも近所で遊べる子供が減少し、一人遊びや兄弟姉妹だけの遊びをせざるを得ない状況があり、その結果、テレビ視聴やゲームに長時間を費やす子供が少なくない。こうした日常生活に起因する生活体験や自然体験の減少は、結果的に子供たちの心の成長にも様々な弊害をもたらしている。

前述した埼玉県学力・学習状況調査の質問紙調査結果では、「地域の大人に勉強やスポーツに関わってもらっている」と回答した児童生徒の割合が、県平均より高い傾向が見られ、地域の児童生徒育成関連団体や町の様々な施策の取組などが成果をあげていることがうかがえる。

山間地の多い本町の少子化の進行は極めて深刻である。学校、家庭、地域が力を結集して子供たちの育成に努め、地域のよさや協働の喜びを感得させるとともに、多様な見方・考え方や価値観にふれる体験を積み重ね、広い視野をもちながら、未来に向けて「夢と志」を育んでいくことが必要である。

II 小鹿野町の学校教育が目指すもの

1 基本目標

かがやく未来へ おがの人づくり

2 目指す子供像

郷土小鹿野に誇りを抱き ^{いだ} 確かな「人間力」を身に付けた子供

<人間力とは>

人間力に関する確定された定義はないが、ここでは「地域社会に積極的に参加し、周囲と協調しながら社会的貢献を果たすとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力にとらえる」こととする。

<総合的な力として身につけさせたい資質能力>

- ①確かな学力 ②社会性 ③夢に向かう活力 ④心身の健康

3 目指す学校像

未来に向かう夢と志を育む学校
子供の可能性を伸ばす質の高い教育を提供する学校
地域に信頼される安全で安心な学校

4 基本方針

- ① 確かな学力の育成
- ② 豊かな心の育成
- ③ 夢に向かう活力の育成
- ④ 小鹿野ならではの教育の推進
- ⑤ 次世代へつなぐ教育環境の整備

Ⅲ 重点的な取組

1 確かな学力の育成

確かな学力の育成は、本町が目指す確かな人間力育成の根幹となる課題である。「規律と活力のある学校づくり」を推進する中で、保幼・小・中の教育の連続性と発展性を意識しながら子供に夢や志を育み、知識や技能の習得はもとより、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を含む「確かな学力」を育成する。

(1) 連続性・発展性のある教育の推進

幼稚園及び保育所と小学校との連携を深め、学びの基盤づくりとしての小学校教育の充実を図る。さらに、義務教育9年間を見通した連続性・発展性のある教育を推進し、学力の向上を図る。

- 「学びの基盤づくり」としての小学校教育の充実
- 保・幼・小の連携による生活習慣・学習習慣の定着
- 小・中学校の連携と学習規律・学習意欲の向上
- 小学校高学年における教科担任制の導入
- 小規模校の良さを生かした教育活動の充実
- キャリア教育を通じた将来展望と学習の意義についての理解の深化

(2) 規律と活力ある学校づくり

規律と活力ある学校づくりに向けて、教師自身が学び、自らの資質を向上させる姿勢が不可欠である。各小・中学校の学級づくりや日々の授業改善に向けて、町独自の研修会を実施するとともに、校内研修への積極的な支援を行う。

ア キャリア段階に応じた教員研修の実施

各学校においては、若手教員が急速に増加し、教職員の資質の向上が大きな課題となっている。町の学校教育指導員等を活用して、様々な機会を捉えた研修機会を設定し、キャリア段階に応じた教員の育成を推進する。

- 町内若手教員を対象とした「学級づくり・授業力向上研修」の実施
- 町内授業改善研修会の実施
- 中堅教員の学校運営参画に向けた資質向上研修の実施
- 学校教育指導員等を活用した授業研究・校内研修への支援の充実

イ ICT教育研修の推進

科学技術や情報化等に対する興味・関心を高め、自ら積極的に課題を解決しようとする意欲や態度を育むため、ICT教育推進に不可欠な教員の指導力の向上を図る。

- タブレット端末、プロジェクター、デジタル教科書等を活用した授業の推進
- 町内ICT教育推進研修会を通じたICT活用技能の向上
- ICT活用授業実践例・データ等の共有

(3) 主体的な学習態度の育成

児童・生徒に確かな学力を育むためには、主体的な学習態度を育成することが不可欠である。各学校における授業を一層充実させるとともに、自主的な家庭学習へと発展させ、児童・生徒の主体的な学びを支援する。

ア 「小鹿野ベース」に基づく授業の充実

子供たちに主体的な学習態度を身に付けることを目指し、学力向上プロジェクトを推進する。具体的な方策として、日々の授業を充実させるため、町内全ての学校(学級)で、共通な視点、スタイルに基づく授業改善(小鹿野ベースの授業)に取り組む。

- 学力向上プロジェクトの推進
- 町内全小・中学校、全学級共通の授業スタイル(小鹿野ベースの授業)の浸透
- 「主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)」の趣旨の浸透と活用

イ 自主的な家庭学習への支援

学校での学習状況や学力検査結果を家庭と共有するとともに、小鹿野町独自の「自学ノート」を活用することなどにより家庭と連携して主体的な学習態度を育成する。

- 自主的な家庭学習の習慣化への支援(「おがの自学ノート」の配布等)
- 「全国学力・学習状況調査」、「埼玉県学力・学習状況調査」結果の分析と共有
- 標準学力検査の実施と結果の分析と共有

2 豊かな心の育成

小鹿野町の未来を担う子供たちに、基本的な生活習慣や規範意識及び健康でたくましい心と体を育成する。そのために必要な環境を整備し、豊かな心のふれあいを深めるとともに、様々な体育的活動に取り組む機会を保障する。

(1) 心の教育の推進

子供たちを取り巻く環境の変化による人間関係の希薄化などの課題に対応するため、学校教育全体を通して道徳教育・人権教育・特別支援教育の充実を図ることに努め、心の教育の一層の充実を図る。

- 「人は自分のためだけでなく、社会のために存在している」という意識の醸成
- インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の推進
- 特別の教科「道徳」の趣旨の浸透と授業の充実
- 生命を大切にする心や思いやりの心を育む人権教育の充実(ほっとハートキャンペーン)
- 「褒め・認め・伸ばす教育」、「自己肯定感を高める指導」の推進
- いじめ防止対策推進法に基づくいじめ防止対策の推進
- 不登校児童生徒に対する効果的な支援、教育相談体制の充実

(2) 社会に貢献する態度の育成

日常生活を通じた望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決するとともに、社会に貢献しようとする態度を育成する。

- 学校生活の基盤となる「学級づくり」、「人間関係づくり」の充実(QUテストの活用)
- 児童生徒の主体性を生かした学校行事等の創造的活動の推進
- 異学年との交流や児童会・生徒会活動の活性化
- 中学生社会体験チャレンジ事業や地域と連携した福祉体験活動の充実
- 地域活動への参加の促進(歌舞伎等郷土芸能活動、地域清掃活動等ボランティア活動)

(3) 食育の推進

食に関する知識と望ましい食習慣を身に付け、自らの健康管理をすることができる力を育むため、小鹿野町給食センター、栄養教諭、給食主任、学級担任、養護教諭等の密接な連携のもとに食育を推進する。

- 地域の食材や郷土食を通じた食文化への理解の推進
- 望ましい食習慣を身に付けるための家庭や地域との連携の推進
- 食物アレルギーの実態把握と事故防止対策の充実

(4) 体力向上と健康の保持増進

健やかな体と豊かな心を育成するため、全教育活動を通じて計画的・継続的に指導するとともに、体育的な環境の整備・充実に努める。また、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力、健康の保持増進のための実践力を育み、体力向上の取組を推進する。

- 各学校の体育的活動及び体育、保健体育の授業の充実
- 新体力テストの分析、結果の活用
- 中学校の部活動における外部指導者等の配置による活動の充実

3 夢に向かう活力の育成

将来夢を実現し、広い視野で物事を考え、個性を発揮しながら、グローバル社会の一員としてたくましく生きていく力を育成する。そのために、働くことの大切さや「人のために」役立つことの喜びを実感する体験活動や、自分を見つめ、自分の適性について理解を深める学習の充実に努める。

(1) グローバル人材の育成を支える基盤整備

グローバル人材育成推進会議は、グローバル人材の要素として、「語学力・コミュニケーション能力」、「主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感」、「異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー」の3点を挙げている。

あらゆる教育活動の中に適切に方策を位置付け、子供たちが3要素を確実に身に付けるための教育活動を積極的に推進する。

ア 語学力・コミュニケーション能力の育成

正しい日本語の習得を図るとともに、英会話のできる中学生の育成を目指し

て、発達段階に応じた学習の充実を図る。

- 小学校の英語活動及び英語科授業の充実
- 小・中学生の国際交流及び中学生の海外派遣の実施
- 幼稚園・保育所、小学校低学年での英語触れ合い体験の推進（ALTの活用）
- 英検・漢検の取得率向上を目指した小鹿野未来塾の充実（中学校卒業時3級4割）
- 正しく美しい日本語の習得と自分自身の考えを正確に伝え合う言語能力の育成

イ 情報収集・活用能力の育成

いつでも、どこでも、ほしい情報を簡単に手に入れることができる時代だからこそ、情報を選択し活用する力を育てる必要がある。情報社会に参画する際のモラルや技術を身に付け、情報手段を主体的、積極的に活用する資質や能力を育成する。

- 各学校のPC室・図書室等を活用した調べ学習の充実
- 「図書館を使った調べる学習」の推進（町立図書館との連携）
- ICT教材等の積極的な活用と情報活用能力の育成
- 情報モラル教育の充実

(2) 夢と志を育む教育の推進

夢に向かう活力を育成するために、義務教育9年間を見通した進路指導・キャリア教育を推進するとともに、学校・家庭・地域が一体となった教育の一層の充実を図る。

- 「おがの子供の夢育成プロジェクト」の推進（1/2成人式、卒業に思う、立志式等）
- 言語的感覚を磨き、人生の指針となる「おがのことだま百選」の積極的な活用
- 「志ノート」の継続的活用による夢や志の育成
- 夢や志を育むハートコンタクトプログラムの活用
- 地域と連携した職場見学、職場体験等の活動の充実
- 9年間を見通した進路指導・キャリア教育計画の充実

(3) 郷土小鹿野に根ざした教育の推進

地域の人々との関わりを通して、地域のよさを知り、町の発展に積極的に関わろうとする態度と、郷土小鹿野に対する愛着と誇りを育む。

- 各小中学校等における地域学習や伝統文化活動の継承（小鹿野ふるさと学習）
- 多様な体験活動を通して地域の良さを学ぶ「総合的な学習の時間」の実践
- 学校行事等における地域との連携の深化

4 小鹿野ならではの教育の推進

これからの学校は、地域や社会、そして、世界に目を向け、地域や社会との接点を持ちながら、地域の人々などとのつながりの中で、子供たちが学んでいけるよう教育課程を開かれたものとするのが不可欠である。「学校教育を通じてよりよい社会をつくる」という目標のもとに、子供たちが未来の創り手となるために求められている資質や能力を育む教育活動を充実する。

(1) 家庭の教育力の向上

学校における学力向上対策等を効果的に進めるためには、家庭との連携が不可欠である。PTAと連携を図りながら、「親子共学」をキーワードに、生活リズムの確立と家庭学習習慣の定着を目指した取組を積極的に推進する。

- 「おがの自学ノート」の配布による家庭学習の習慣化への支援
- PTAと連携した「おがの家庭教育宣言」の取組強化

(2) 地域の教育力の活用

「教育スクラム日本一の町づくり」を目指して、学校応援団等との連携を強化するとともに、地域の人材や県立小鹿野高等学校等の協力も得ながら、小・中学生や町民への学習機会の拡充を図る。

ア 社会に開かれた教育課程の実現

学校・家庭・地域が子供たちを育成する目標を共有し、地域の人的・物的資源、関係組織等を活用しながら、社会と協働する教育活動を積極的に展開する。

- 学校応援団組織の充実と学校の教育活動への支援
- スクールガードや安全ボランティア等による子供たちの見守り活動の充実
- 小鹿野高等学校や地域の各種関係団体との連携

イ 小鹿野未来塾の推進

「親子共学」、「地域の人材活用」、「県立小鹿野高等学校との連携」をキーワードとして、小・中学生や高校生、町民を対象とした学習機会の拡充を図る。

- 小鹿野未来塾漢字検定・英語検定チャレンジスクール講座の実施（検定料の助成）
- 中学生未来塾講座の実施による国語科、数学科、英語科の補充学習の充実
- 小鹿野高校との連携による小学生科学不思議講座の実施

(3) 学校教育充実に向けた行政支援

学習指導員、生活指導補助員の一層の活用を図り、事務処理等の一部を分担するなど、教員の負担を軽減して、教員が子供を指導したり、触れ合ったりする時間を確保する。また、学習支援推進員、学校図書館支援員、ICT支援員等を配置し、様々な教育環境を充実させるとともに、各学校の教育活動を一層推進させる。

- 学習指導員、生活指導補助員、校務業務補助員（スクールサポートスタッフ）の配置
- 総合校務支援システムの導入
- 学校図書館支援員の配置による図書室の整備と利用の促進、「調べる学習」の推進
- 学習支援推進員、ALT、ICT支援員等の配置による授業の改善・充実

5 次世代へつなぐ教育環境の整備

本町では、平成27年度に幼稚園3園を、平成28年度に中学校4校を統合し、適正規模の学習環境の整備を進めてきた。また、小鹿野町教育施設整備グランドデザインに基づく諸計画を推進し、子供たちのよりよい学習環境、生活環境の整備に向けた取組を推進してきた。

今後は、これまでの予想を上回る速さで児童数や学級数の減少等が発生することが想定され、少子化への対応が最も大きな課題となっている。

小学校4校の統合、保育所・幼稚園・小学校・中学校を連続した教育の充実、地

域とともに歩む学校づくりなどについて検討するとともに、それらを支える教育施設・設備を充実させ、小鹿野町の未来へつなぐ教育環境を整備し、子供たちが夢と希望をもち、町民が誇りとする学校教育の実現を目指す。

(1) 幼児教育の充実

少子化の進行に伴う核家族化や共働き世帯の増加等により、就学前の幼児に対する教育内容や子育て支援への要望は多様化している。また、今日の教育課題のひとつとして「小一プロブレム」が指摘され、幼児教育から小学校教育への円滑な接続が課題となっている。就学前の子供たちのよりよい教育・保育環境の構築を図るための取組を積極的に推進する。

- 幼保一元化の推進【おがのこども園(仮称)の設立に伴う幼稚園教育の見直し】
- 幼児教育と小学校教育への接続期プログラムの充実

(2) 学校の未来像

「子供は町の宝」である。「町の未来を担い、世界へ羽ばたく子供を育てる学校づくり」、「地域と共にある、地域に誇りとされる学校づくり」の実現を目指す。

将来的には小学校が統合することを想定し、小・中学校1校ずつの併設型小中一貫校を目指すとともに、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の導入を進め、地域との結びつきを一層発展させ、地域とともにある学校づくりを推進する。

さらに、町内にある教育機関の頂点である県立小鹿野高等学校との連携を一層深化させながら、教育先進の町づくりを推進する。

- 小・中学校が目標と手立てを共有し、義務教育9年間を連続させた学びの推進（町民が誇りとする併設型小・中一貫校の実現）
- コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入
- 小鹿野高等学校との連携の深化

(3) 施設・設備の充実

小鹿野町小学校再編整備基本方針に基づき、未来を担う子供たちに、良好な教育効果が得られる教育環境を確保するため、地域の合意を得ながら、小学校統合や小中一校ずつの併設型小中一貫校等を想定した小学校の再編整備に向けて、様々な検討や準備を進める。

また、小学校統合後の学校生活を一層充実させ、子供たちが未来に希望がもてるようにするため、小鹿野小学校の施設・設備の重点的な整備などを段階的に進め、魅力的な教育環境を次世代に引き継ぐ。

- 統合を踏まえた小学校の教育環境の整備
- 新しいニーズに対応した教育施設の再構築